



創立70周年「つづく つながる 夢を育てる学び舎」

令和3年(2021年)3月24日

国立二小だより

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

満開の桜に見送られて



校長 小林 理人

明日は卒業式、6年前の入学式で子供たちを迎えた桜が、満開となってその門出を見送ります。

今年の二小桜も、修了式・卒業式と満開が重なり、「今できること」を精一杯頑張っている子供たちに「よく頑張ったね。進級、卒業おめでとう！」とエールを贈っているかのように華やかです。

今年の3月は、感謝の気持ちを言葉や行動で伝える子供たちの姿がたくさんありました。また、新しい年度に向けて、成長を確かめたり準備を進めたりする頼もしい姿も随所に見られました。

二分の一成人式(4年)と感謝の会(6年)

今年は、保護者の皆様をお迎えし、感謝の気持ちを伝える2つの会を対面で実施することができました。

4年生の二分の一成人式は密集をさけるために、合奏と感謝の気持ちを伝える発表会を学級毎に行いました。子供たちは開式前に、保護者の皆様からいただいた心のこもった手紙を読み、感謝の思いや、成長に対する喜びの気持ちを高めました。そして、合奏とメッセージ発表でその思いを保護者の皆様に伝えました。

6年生は、この1年間の経験を活かし、保護者の皆様に感謝の気持ちを伝える会をみんなで考えました。そして、校庭で二松ソーランを披露し、体育館では、合奏と二小クイズで楽しい時間を過ごしました。また、会の最後には、一人一人が心を込めて書いた手紙を直接手渡すことで感謝の気持ちを伝えました。

自らの成長を確かめ、伝える学習(2・3年)

2年生は生活科の学習で一人一人の成長の記録(アルバム)をつくりました。これまで頑張ってきたようになったことや、それに関わってくださった方への感謝などを、学習で身に付けた力を活かして一冊の本にまとめました。そして、それを使って、自らの成長や感謝の気持ちを友達や保護者の皆様に伝えました。

3年生は、国語の学習で、成長した自分や生活する場所などの中から自慢できることを見つけ、それに対する思いや感謝の気持ちを作文にまとめたり発表したりする学習を行いました。自分のことだけではなく、学校全体のことなどを考えるなど高学年になる心の準備をしました。プラタナスの3年生は「二小の自慢はプラタナスがあることです。」と校長室に来てプラタナスの良さを堂々と発表してくれました。

新入生の教室づくり(1年)と引継ぎ活動(5年)

1年生は、例年、入学式で演奏やよびかけを披露しますが、今年は1年生のみの入学式となるため、お祝いと励ましの思いを入学式で伝えることが出来ません。そこで、これまで学んだことを活かして新入生が使う教室の装飾づくりを行い、お祝いと励ましの気持ちを伝えようとしています。

4月から最高学年となる5年生は、6年生との引継ぎ活動を行いました。伝統の二松ソーランの踊りはもちろんのこと、踊りに込める「二小魂」についても丁寧に教えてもらいました。また、卒業式の予行練習に参加をし、二小の伝統を引き継ぎ、新しいリーダーとなることへの決意を新たにしました。

結びになりますが、子供たちの成長を支え、励ましてくださった皆様に心から感謝申し上げます。

皆勤賞 おめでとうございます。

臨時休業があり、授業日数が少なくなった今年度でしたが、256人の児童が年間の皆勤でした。1年間を通して体調の管理に努めたこと、学校に休まずに登校できたことは素晴らしいことです。

そして、6年生の4名は、6年間の皆勤です。おめでとうございます。